

NPOおかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズの活動について

【団体の概要】 ●所在地：岡山市 ●代表者：川崎政宏 ●設立：2005年2月

●目的：犯罪被害者遺族を中心に設立された犯罪被害者支援組織であり、①電話相談、②自助グループ活動、③直接支援活動、④広報啓発活動（遺族が学校に出向いて行う「命の授業」）を柱に7年間地域活動を続けている。

●活動概要：遺族が地域で語れないまま、孤立している状況を改善するための「つながりの場」を大切にし、そこに集う声を行政に届け協働事業を展開してきた。正会員25名、賛助会員60名で、代表川崎は弁護士、副代表高橋は精神科医。正会員の電話相談ボランティア20名のうち12名が自殺防止電話活動に関わっている。

平成19年4月から、①自死、突然死遺族のための電話相談を併設し、同年8月から②大切な人を亡くした人のためのグリーフ・ミーティング（毎月第4土曜）を立ち上げ、自死遺族の集いの保健所での立ち上げに協力し、③暴行を苦しむ子どもが自殺した方の裁判支援、自殺か交通事故か判明しないご遺族の警察付添、家族が事件性の疑われる自殺に遭遇した遺族の支援などを行うなかで、「自死遺族支援」という枠組みだけでは支援の手が届かない遺族の存在に気づき、広く死因を問わない遺族支援へと活動の幅を広げ、④中学校・高校へ犯罪被害者遺族が出向く「命の授業」においても、いじめや自殺の問題にも触れ、子どもたちのグリーフケアの大切さを説いている。県内自殺対策連絡会議などへの参加、保健所主催の自死遺族の分かち合いの会への協力、岡山いのちの電話協会主催の自殺予防シンポジウムにもパネラー参加協力している。平成22年から24年にかけて厚労省自殺防止対策補助事業として「グリーフワーク」と「命の授業」を核にした地域における自殺対策モデルの構築事業」を実施中。

【自殺総合対策大綱改定に向けての意見】

● 心の健康づくり活動について、精神保健福祉センター、保健所等が地域の相談窓口として広く知られ、気軽に利用できることが大切と思う。特に、「遺族相談」など事故対応と自殺予防が密接に関連する相談については、なかなか相談に行きづらい当事者のための「訪問支援」なども含めた地域連携ができることがのぞましい。グリーフワーク、グリーフケアについての認知度を高めることも大切に思う。

● 社会的な取組として、地域における相談体制は、相談窓口がばらばらであり、連携も十分できていないので、「自殺防止」の観点から相談窓口担当者レベルの顔の見えるネットワークを地域で構築していく必要がある。現在、実施されている「寄り添いホットライン」のように、既存の高齢者、子ども、ホームレス、障がい者等の支援団体が実践している電話相談、同行支援とのネットワークや公的機関との連携により、地域のセーフティネットを作っていく必要を感じる。

NPO 法人たけはらふれあい館の活動について

【NPO 法人たけはらふれあい館の概要】

- 設立 2007 年 3 月 ○所在地：〒725-0026 広島県竹原市中央 2 丁目 4 - 3 ☎(0846)22-9100 ○代表者：岩本 正則
- 活動目的：子育て支援事業、世代間交流事業、介護・ホスピスケア等相談事業並びに関係団体などとの交流に関する事業を行い、青少年の健全育成、及び住民参画の協働のまちづくりの推進に寄与する。

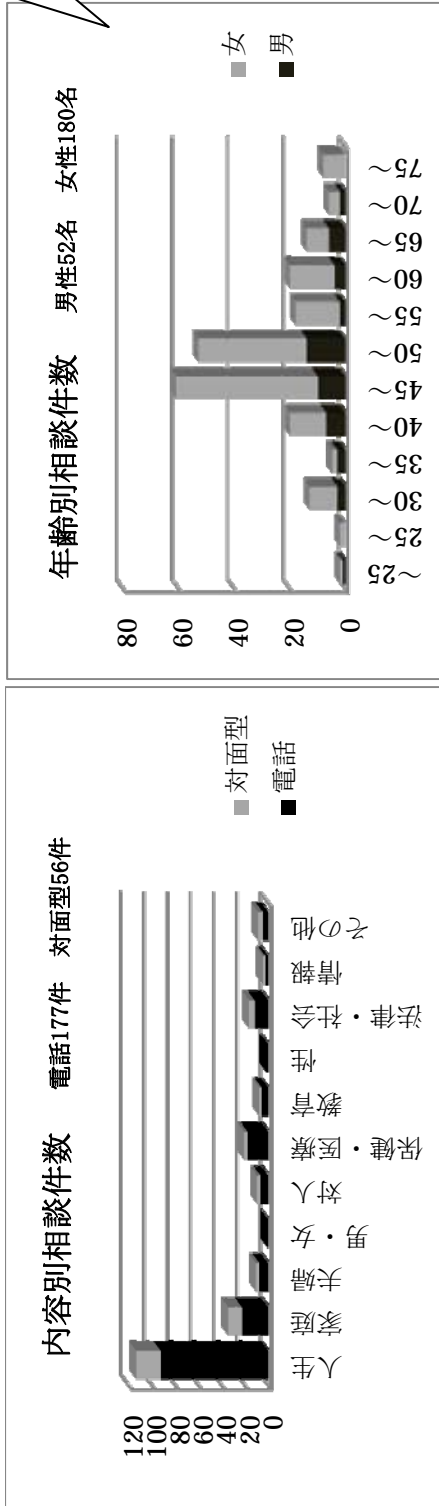
○自殺対策に係る取り組みの概要

- ・2009 年 10 月 竹原市から地域自殺対策緊急強化事業の委託を受け、本事業を開始 相談員 6 名 電話相談、又は対面型相談を毎日（土・日曜、祝祭日も含む）9 時～18 時まで開設（夜間は留守番電話で対応）
- ・2012 年 2 月 自殺対策公演開催 自殺防止を趣旨とした演劇 相談状況の報告、及びゲートキーパーの役割の重要性についての啓発
- ・関係機関との連携のための『竹原市自殺対策ネットワーク会議』の開催

相談状況（2012 年 5 月 15 日現在）

- ・総数 233 件
- ・新規相談 49% 継続相談 51%
- ・地域別 竹原市内 39% 竹原市外 48%
- ・時間 電話相談 30 分以内 60%
- 対面型相談 1 時間以上 55%

電話相談、または対面型相談（予約なし）相談終了）長い時間を聞いていただきありがとうございます。少しは気持ちが悪くなりました。



【自殺総合対策大綱改定に向けての意見】

- ・NPO 等民間の主導によるネットワークづくりを行政が支援する仕組みづくり 既存の組織の活用にとどまらず、一人の市民として自殺防止に参画できる仕組みの中で新たなネットワークが生まれ、意識の高まりやゲートキーパーの拡大、さらに協働のまちづくりにつなげ、民間の強みと行政の強みを融合させること。また、ゲートキーパーについては研修の方法を考え、実働する人材育成をめざし、研修を受けた民の主導で拡大を図っていく。
- ・各地域の実態の分析 個人情報に配慮することは当然であるが、多様で重なり合う要因を各地域のネットワークを通して分析し、取組みを具体化することにより、地域課題として自殺対策に向けた動きができるのではないかと思う。
- ・事業の継続と特色ある事業への積極的な支援

「自死遺族わかち合いの会 木洩れ陽」の活動について

自死遺族わかち合い木洩れ陽の概要

- 所在地：山口県岩国市 ●代表者 寺尾眞澄
- 活動目的 内容：亡くした大切な人のことを語ることでできる場所を提供する。自死遺族が出会い、つながり合うことによって、遺族自身がまず元気に生きていけるようになることが目的。
- 活動内容：自死遺族わかち合いの会の開催 奇数月第3日曜日 13時30分～16時

電話相談

山口県自殺対策フォーラム、岩国市社会協議会主催の行事での講演

自死遺族フォーラム in 岩国 平成24年3月3日開催

自殺総合対策大綱改定に向けての意見

- まずは、「自殺」という言葉を、追いつめられた末の死であるという意味の「自死」としてほしい。自死への差別、偏見をなくすことにもつながるのではないだろうか。
- 家族がサインに気づき、早期受診、早期治療を始め、早期に自死してしまっただけという場合もあります。精神科にかかって、服薬を続けられれば、安心だと家族は思っています。うつ病キャンペーンなどの「サインに気づきましょう」で精神科に繋げるだけでなく、その後の対応まで考える必要がある。精神科医療問題、薬も含めて、改善、改革なしでは自死を防ぐことは不可能です。
- 「受診している例は少ない」という状況ではなく、自死した多くの人たちは受診していたという現実を受け止め、自殺の実態解明をし、それに基づいた施策をおこなう。
- 自殺者の遺族のための自助グループの運営支援は、県によって、ばらつきがある。
- 今回のような、内閣府自殺対策推進室と私たちのような民間団体との意見交換の場を定期的に設け、自殺対策の進捗状況をお互いが共有し本気で取り組むことが必要。遺族の声なしには、自殺対策はありえない。

所属

NPO法人：

APPROACHFORLIFESAVER（通称；アプローチ会）

活動場所；事務所 徳島市中前川町1-9 TEL;088-622-1226

メール相談 全国から相談が来ている

活動目的 自殺予防

活動内容：

自殺予防 広報活動県民大会など（数年間のパンフレット参照）

講演活動； 徳島県下、阿南市4回 阿波市5回、吉野川師1回
徳島市2回

危機介入 メール相談、電話相談 インターネット及びブログメンバーからの悩み相談

全国から双方向性で 480件 やりとりが10回とすると4800回（3年間の累積）

メンバー研修 メンバー50名程度 全部働きながら奉仕活動をしています。

事務員がメンバーに転送（職場からあるは帰宅して返事）

（神科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、ケアマネージャー、内科医、小児科医、会計士、司法書士、専門大学講師、経営者、弁護士、精神会話士、コンピューター専門家等が専門知識で持って返事を出している。）

自殺者のホローアップ

メンバーの中で自死家族の葬儀を手伝うNPO法人「命のしずく」のメンバーがいる。

広報活動

自殺予防冊子 「しなれんよ」 3年前印刷 7,000冊配布
「あなたのメンタルランド」 23年12月発刊
4,000冊配布済み

今後の活動 上記継続

自殺予防冊子発行予定、（高齢者；勤労者；思秋期後期）の自殺予防対策